

拠点間連携による価値の生成促進、“点から面へ”

— SX-CRANE Connect & Networking Day を開催 —



宇宙戦略基金 SX-CRANE ロゴマーク

2026年5月29日、X-NIHONNBASHI TOWER（日本橋三井タワー7F）において「SX-CRANE Connect & Networking Day」を開催しました。文部科学省、プログラムオフィサー（PO）、JAXA、そして採択された実施機関が一堂に会する初めての場となりました。

本イベントは、宇宙戦略基金第一期「SX 研究開発拠点」に採択された5拠点と、第二期「宇宙転用・新産業シーズ創出拠点」の5拠点を合わせたSX-CRANE（SX-Center of Research and Engineering）ファミリー計10拠点が集まり、互いの事業内容への理解を深め、ネットワークを広げ、拠点間の連携を促進することを目的としました。

採択機関			
第一期		第二期	
テーマ名	代表機関	テーマ名	代表機関
デトネーションエンジン・宇宙推進工学革新研究拠点形成	名古屋大学	ユビキタスな自律移動社会を支える次世代PNT技術開発	東京海洋大学
次世代宇宙用太陽光発電デバイスの研究開発拠点	東京大学	有人火星時代に向けた環境センサ・小型ペイロード開発拠点	東京科学大学
月面開発のための宇宙資源開発拠点	東京大学	宇宙での医療と一体化した居住空間開発拠点	東京科学大学
月面探査・利用を産業化する宇宙機器開発・人材育成拠点	立命館大学	革新的宇宙ガストロノミー技術開発拠点 (STAR-MEALS)	山形大学
国立天文台スペースイノベーションセンター構想	国立天文台	一般民間人の健康・快適宇宙生活を実現する宇宙QOL研究開発拠点	早稲田大学

第一期/第二期 SX-CRANE で採択された機関

開会にあたり、角南 PO からは、第一期・第二期の各拠点が先進基盤技術や高度な設備等で宇宙開発の土台を支える存在となること、さらにはそれらの連携によって価値を高めることへの期待が示されました。

また、文部科学省 宇宙開発利用課の島村課長補佐からは、SX-CRANE の重要な役割として「人材・技術・資金の好循環」を目指すこと、そして各期が面的な拠点を形成し、シナジーを生み出すことで産業全体が下支えされるというビジョンが共有されました。

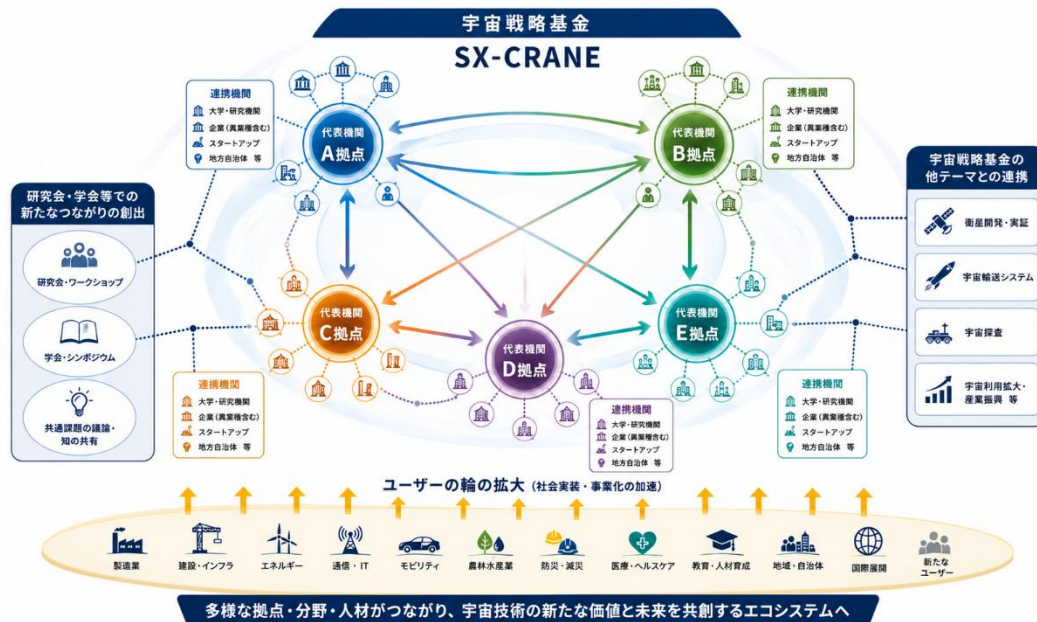


角南 PO



文部科学省 島村課長補佐

SX-CRANE では、大学・民間の機関や研究者による、革新的な技術やアイデアの相互連携によって、未来の宇宙産業発展に向けた新しい価値の創出を目指しており、宇宙領域参画者の更なるモチベーションへ繋がるのが期待されております。JAXA からは、その実現に向けた技術開発マネジメントの体制や方向性が共有され、多様な拠点・分野・人材のつながるエコシステムの実現のため、各拠点の連携の重要性が改めて強調されました。



連携の方向性 (イメージ図: AI 支援により作成)

今回の SX-CRANE Connect & Networking Day では、「SX 拠点の見える化」「拠点価値の生成促進」「拠点間連携による新たな拠点の創出」を目的に、第一期及び第二期の研究代表者による各拠点の紹介、第一期の研究代表者によるこれまでの経験と今後の展望を議論するパネルディスカッション、PO 補佐から第二期の研究代表者への採択盾の贈呈式、個別の技術開発に関するポスターセッションなどが行われました。それらのイベントを通じて、各拠点が相互に技術開発の内容、状況と人を知ることができ、将来的な拠点間連携の促進につながる有益なきっかけ作りができたものと考えております。

今後、宇宙戦略基金第三期「SX 技術シーズ統合・人材育成拠点」に採択される事業者も

加え、今後も年に一度のペースで開催予定です。第三期については7月下旬頃から公募開始を予定していますので、ご関心のある方は、ぜひ今後の情報をご確認いただき、SX-CRANE の新たなプレイヤーとして参画をご検討ください。

【参考情報】宇宙戦略基金第三期 SX-CRANE/CRANE 公募開始に関するご案内



SX-CRANE Connect & Networking Day の狙い



全体集合写真